

市民後見センター

ほ っ と

ニュースレター

発行 令和2年1月12日
発行者 NPO法人 市民後見センター
ほっと 理事長 井上 博司
〒284-0043 千葉県四街道市めいわ 2-9-8
TEL 043-312-7298
FAX 043-312-7098
URL <https://www.kouken-hot.com>
E-mail office@kouken-hot.com

第 9 号

<新年おめでとうございます>

皆さまは、どのように新年を迎えられましたか？

昨年は、台風や停電、大雨など千葉で暮らしてきて思いもしなかった災害が相次ぎました。深刻な被害を受けた方に比べれば大したことではありませんが、たった数日電気が来ないだけでも大変だということはいくぶん分かりました。今まで他人事として見ていたことが、いざ自分の周りに起きてみると、成すすべがなく、どうしていいか途方に暮れるということになりました。



冬が近づき、少し気持ちが落ち着くと、私たちの関わる成年後見制度についても同様のことが言えるのではと思う

ようになりました。もちろん、受任してご本人支援の活動をすることは重要なのですが『他人事として

見ている方たち』にいざ自分や家族に問題が起きた時にどうしたらいいのか、どんな方策があるのかを伝え、適切に心構えをしていただくようにすることも大切なのではないかという思いが強まっています。そのためには、新たに力を貸してくれる仲間も増やしていかなければならないでしょう。今年は、そうしたことに力を注いでいこうと思います。

<ほっと HP のお知らせ>

新URL <https://www.kouken-hot.com/>



昨年末に、懸案事項だったホームページのリニューアルをいたしました。同時に証明書の導入もしたので上記の新URLになります。ご覧いただき、いろいろご意見をいただければ幸いです。

この1年がすべての皆さまにとって、より良い年となることをお祈り申し上げます。

(理事長 井上 博司)

《内部研修報告》 研修日：令和元年11月10日

講師：みどり総合法律事務所

弁護士 武田祐介先生

テーマ 「情報管理の重要性」

専門業者に廃棄等を依頼したHDD（ハードディスクドライブ）が、違法に持ち出され、ネットオークションに出回るといった事件がありました。買った人が試してみたら膨大な個人情報、秘密情報が復元できる状態であったということです。

現在、パソコンを使わずに仕事をするのはできませんが、入力したデータの利用、保管は勿論、記録媒体の廃棄にも徹底した管理が必要であることがわかります。情報流出には、この事件やハッキングのように犯罪によるものがありますが、私たちにとって最も身近なリスクは、不用意に他者の目や耳に触れさせてしまうことや、紛失、誤送信などです。

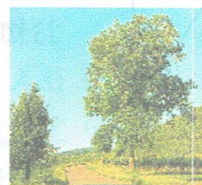
この認識を向上させる目的で、

「情報管理の重要性」について研修を実施しました。どのような情報がガードすべき個人情報



にあたるのか、どのような事故があるか、これらの事故を起こさないようにするために、どのような対策をしておくべきかを学ぶことができました。

組織として個人情報保護のための体制を整え、法令順守の意識を徹底する。リスクを抑えるために、不要な個人情報を集めない。必要以上の情報に触れない。情報流出を防ぐために、データにはパスワードを付ける。メールの誤送信防止のための対策などについて教えていただきました。



ほっと会員一同、情報管理の重要性を再認識し流出防止に取り組みます。(研修担当)

《活動の現場から》

「昔ばなし」

職員や他の利用者となかなか話をせずコミュニケーションが成立しにくい方がいらっしゃいます。声掛けしてもこっちを向いて頂けないことが多く話しかけにも返事がありません。そんな時でも食べ物のお話には関心があるようで、一言二言返事が返ってくる場合があります。



例えば好きな食べ物は何か、昔は何をよく食べましたかなどの問いかけに返事があります。時間の経過とともに重い口が少し軽くなったと判断したら、食べ物から話をつなげて昔の話を話題にします。お酒はよく飲まれていたのかどうか、どんなお酒が好きですか、またパチンコはどうでしたか、景品は何に交換していましたかなど。

例えば好きな食べ物は何か、昔は何をよく食べましたかなどの問いかけに返事があります。時間の経過とともに重い口が少し軽くなったと判断したら、食べ物から話をつなげて昔の話を話題にします。お酒はよく飲まれていたのかどうか、どんなお酒が好きですか、またパチンコはどうでしたか、景品は何に交換していましたかなど。

先日は映画を話題にして、昔よく観た映画や俳優の事を聞いてみました。高倉健の任侠物ややくざ映画、勝新太郎の座頭市や兵隊やくざ、市川雷蔵の眠狂四郎、渥美清の寅さんなどを挙げたところ、やはり高倉健でした。健さんは昭和の時代の偉大なるスターでしたから。

他人とコミュニケーションをとるのが難しい人は、出来ないのではなくて本当は話しかけてもらい、構ってもらいたくてしょうがないのではないかと思います。話しかけながら今はどのような事に興味を持つのかを感じて、相手の口が開くタイミングを焦らず待ちます。沈黙の時間は辛くもありませんが意味があると信じて。



今後も食べ物のお話や若い頃のお話をして、記憶の奥底にある様々な思い出を呼び覚ましていければと考えております。(S.T)

《ミニ知識コーナー》

認知症を知ろう

＜今回は、認知症の人との会話からその奥にある心を知りたいと思います＞

1 「会話中に同じことを繰り返し質問する。」

何度も同じことを尋ねるのはそれがその人にとってとても大切なことだからです。

「さっきも言ったでしょう！」「何度いったらわかるのよ！」は良くありません。これは「あなたの問いには答えない」という拒絶の意思表示です。

とは言え、毎回根気よく答え続けることはなかなかできません。繰り返しに終止符を打つためによく採られるのが、その人の好きな物事で気をそらす方法です。・・・

2 「認知症になると、話している相手に対する理解が曖昧である」

従って警戒心を解いてこちらを信頼してもらうためにまずは笑顔で接する事が大事。

真顔は、認知症の人には怒っているように見えるため良くありません。そのうえで、自分が何者で、何のためにここにいるかを繰り返し説明します。・・・
(3) 「質問に答えられず、ごまかしやはぐらかしをする。」

特にアルツハイマー型によく見られる『取り繕い』と呼ばれる症状です。理解力や判断力の低下で答えられないのですが、相手を不快にしないほうが良いとか会話を打ちきらないほうが良いと気持ちがあります。その一方で、何となく居心地の悪い思いもしていますので、何度も重なるとやがて会話自体を拒むようになってしまいます。具体的な応えやすいやり方で質問をするとよいでしょう。・・・

参考文献： 光文社発

『認知症の人の心の中はどうなっているのか？』

高齢化社会です。少しでも認知症への理解を深めることで、不安を和らげ共に安心して過ごす素地を作りましょう。



お知らせ (後見等のご相談)

- ① 法人「ほっと」にお電話を！
 - ② 第2日曜日わろうべの里でもお話を伺います (13時～)
- お知り合いの方にもご紹介を(*_*)

編集後記 : 昨年は令和になり、今年はおリパラが開催されます。皆で、世界中のアスリートに熱いエールを送りましょう。

当法人ほっとも真摯に業務に向き合い、少しでもお役に立つよう努めてまいります。(K)

